

### 3 専門分野

授業科目	全部床義歯技工学概論	担当教員	外部講師☆ ① 阿座上 遼子	単位数	1	時期	1年次 4月～6月				
				時間数	30						
目的と目標	<p>無歯顎の補綴治療における有床義歯技工学の意義と目的を理解し、全部床義歯の構造と特性を理解する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 有床義歯技工学の意義と目的を説明できる</li> <li>2 有床義歯の特徴と適応症を列挙できる</li> <li>3 全部床義歯の構成要素を説明できる</li> <li>4 全部床義歯の維持、安定および支持について説明できる</li> <li>5 全部床義歯の製作順序を説明できる</li> <li>6 模型上の解剖学的ランドマークを列挙できる</li> <li>7 全部床義歯の印象採得について理解できる</li> <li>8 全部床義歯の咬合採得について理解できる</li> <li>9 ゴシックアーチ描記法の目的を述べることができる</li> </ol>										
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員						
1, 2	有床義歯技工学概論	有床義歯とは 有床義歯技工学の意義と目的・種類 固定性補綴物（ブリッジ）との相違		講義	外部講師 (阿座上遼子)						
3, 4	有床義歯技工に関連のある生体についての基礎知識	形態的・機能的・審美的基礎知識 下顎位と下顎運動についての基礎知識									
5, 6	全部床義歯の特性	有床義歯技工に伴う生物学的事項 全部床義歯の構成要素									
7, 8	全部床義歯の製作順序	全部床義歯の口腔内での維持、安定 歯科診療所と歯科技工所における作業の関連									
9, 10	全部床義歯の印象採得に伴う技工作業	無歯顎・無歯顎の印象とトレー 精密印象と作業用模型									
11, 12	全部床義歯の咬合採得に伴う技工作業	咬合床製作のための作業用模型の処理 咬合床 全部床義歯に用いられる咬合器 作業用模型の咬合器装着									
13, 14	まとめ	咬合器の調整 ゴシックアーチの描記装置の取り付け									
15	試験							試験			
評価方法		筆記試験									
参考文献と資料		最新歯科技工士教本 有床義歯技工学（全国歯科技工士教育協議会編）									
事前準備や受講要件等		必要に応じてプロジェクターを準備する									
☆担当教員の実務経験		①歯科医師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする									

授業科目	全部床義歯技工学各論	担当教員	専任教員☆	単位数	1	時期	1年次 9月～10月
			① 北川 洋哉 ② 鷺見 明香 ③ 野津 尚哉	時間数	30		
目的と目標	全部床義歯の製作順序を理解する 1 個人トレーの目的を述べることができる 2 咬合床の役割を述べるができる 3 咬合床製作に必要な作業用模型の処理を説明できる 4 作業用模型の咬合器への装着方法を列挙できる 5 ゴシックアーチ描記装置の記録床への取り付け方法を説明できる 6 全部床義歯の人工歯排列方法を説明できる 7 全部床義歯の歯肉形成の目的を述べるができる 8 全部床義歯の蠟義歯埋没の種類と方法を説明できる 9 義歯床用レジンの重合法の種類と特徴を説明できる 10 咬合器再装着の方法を説明できる 11 人工歯の削合の目的と方法を説明できる 12 研磨の目的と方法を説明できる						
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員		
1, 2 3, 4 5, 6 7, 8	全部床義歯の印象採得に伴う技工作業 咬合採得に伴う技工作業	無歯顎の印象とトレー 個人トレーの製作・ボクシング 咬合床の製作 咬合器装着・咬合器の種類 ゴシックアーチ描記板の設定 人工歯の種類		講義	専任教員 (北川洋哉)		
9, 10	全部床義歯の人工歯排列と歯肉形成 全部床義歯の埋没と重合	人工歯・人工歯排列 歯肉形成・蠟義歯の試適 埋没の前準備 埋没・流蠟・義歯床用レジンの重合					
11, 12 13, 14 15	全部床義歯の咬合器への再装着、削合および研磨 修理 試験	人工歯の削合 研磨 リベース・リライン		演習 試験	(野津尚哉)		
評価方法	筆記試験 確認テストを行うが評価には加えないが、結果不良のものには課題が出ることもある						
参考文献と資料	最新歯科技工士教本 有床義歯技工学 (全国歯科技工士教育協議会編) スライド資料などの配布資料						
事前準備や受講要件等	必要に応じてプロジェクターを準備する 演習に使用する模型を準備する						
☆担当教員の実務経験	① 歯科技工士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする ② 歯科技工士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする ③ 歯科技工士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする						

授業科目	無歯顎の印象採得に関わる歯科技工	担当教員	専任教員☆ ① 鷺見 明香	単位数	1	時期	1 学年 4 月～7 月
				時間数	45		
目的と目標	全部床義歯の製作手順を理解し、印象採得から咬合器装着までの要領および注意事項を理解する 1 個人トレーの製作ができる 2 作業用模型を製作できる 3 既製咬合床を製作できる 4 作業用模型を咬合器に装着できる						
回数	学習課題	内 容		方 法		担当教員	
1, 2	模型作製	模型注入・模型調整		実習		専任教員 (鷺見明香)	
3, 4	常温重合レジンの圧接	外形線の記入・レジンの圧接					
5, 6		外形の調整・柄の付着					
7, 8		レジン表面の研磨・維持部の形成					
9, 10		コンパウンドの固着					
11, 12		研磨・完成					
13, 14	ボクシング						
15, 16	作業用模型の製作	外形線の記入・ポストダム					
17, 18	上下顎咬合床の製作	既製咬合床の調整					
19, 20							
21, 22	咬合器装着	上下顎咬合器装着					
23	評価	評価・振り返り					
評価方法		各実習製作物および基本的実習態度により評価をする					
参考文献と資料		最新歯科技工士教本 有床義歯技工学（全国歯科技工士教育協議会編） 有床義歯技工学 実習の手引き					
事前準備や受講要件等		必要に応じてプロジェクターを用意する 実習レポートの作成有					
☆担当教員の実務経験		①歯科技工士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする					



授業科目	義歯の安定に関わる 基本技術	担当 教員	外部講師☆ ①横田 哲史	単位数	1	時期	2年次 11月～12月
			専任教員☆ ②野津 尚哉	時間数	45		
目的と 目標	口腔内で安定した義歯を製作するために基本技術である排列技術の習得をする。 1 両側性平衡咬合のための彎曲を調節できる 2 効率よく排列するための技術向上を考えることができる 3 排列した歯列の咬合様式を検証できる						
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員		
1, 2 3, 4 5, 6 7, 8 9, 10 11, 12 13, 14 15, 16 17, 18 19, 20 21, 22 23	全部床義歯排列練習           試験 評価	フルバランスドオクルージョン 前歯部排列・点検修正 臼歯部排列・点検修正 歯肉形成・点検修正 排列 排列修正 歯肉形成  蠟義歯完成 1  蠟義歯 1 修正  蠟義歯完成 2  蠟義歯完成 3  実技試験 まとめ		実習          試験 講義	外部講師 (横田哲史) 専任教員 (野津尚哉)		
評価方法	実技試験により評価する						
参考文献 と資料	最新歯科技工士教本 有床義歯技工学 (全国歯科技工士教育協議会編) 有床義歯技工学 実習の手引き						
事前準備や 受講要件等	咬合器に装着されたいろう堤を準備する 排列用の硬質レジン歯を準備する						
☆担当教員 の実務経験	①歯科技工士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする ②歯科技工士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする						

授業科目	部分床義歯技工学概論	担当教員	外部講師☆ ① 山村 善治	単位数	2	時期	1 学年 4 月～7 月
			専任教員☆ 恒川 康成 ②野津 尚哉	時間数	60		
目的と目標	一部歯牙が欠損した口腔の変化を理解し、形態・機能および審美性を回復する部分床義歯の概要を理解する 1 生体における歯の欠損による障害を理解できる 2 部分床義歯の特性を理解することができる 3 部分床義歯の構成および製作手順が理解できる 4 診療室でおこなわれる作業を理解できる 5 歯科技工室で行われる工程と注意点を理解できる						
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員		
1, 2	部分床義歯の特性	部分床義歯の構成要素 残存歯、欠損の分布状態による分類 咬合圧の支持様式・支持域による分類 義歯の支台装置・目的別による分類		講義	外部講師 (山村善治)		
3, 4 5, 6 7, 8 9, 10 11, 12 13, 14 15, 16 17, 18	部分床義歯の製作順序 部分床義歯の構成要素	歯科診療所と歯科技工所における作業の関連 支台装置		講義 演習	専任教員 (恒川康成) (野津尚哉)		
19, 20 21, 22 23, 24	義歯の設計と支台装置	連結子（連結装置） 義歯床 人工歯 義歯の着脱方法 サベラインの描記 レスト付二腕鉤（線鉤と鑄造鉤） 支台装置の設計 リングクラスプ、ローチクラスプ、ヘアピンクラスプ			講義	外部講師 (山村善治)	
25, 26 27, 28 29, 30	部分床義歯の印象採得に伴う技工作業 部分床義歯の咬合採得に伴う技工作業 試験（1 時間） まとめ（1 時間）	義歯の設計手順 義歯の動きと安定 印象採得に伴う技工作業 作業用模型の製作・オルタードキャスト法 咬合採得に伴う技工作業 咬合器への作業用模型の装着		試験 講義			
評価方法		筆記試験 小テスト					
参考文献と資料		最新歯科技工士教本 有床義歯技工学（全国歯科技工士教育協議会編） 講義に使用するスライドは資料を配布する					
事前準備や受講要件等		必要に応じてプロジェクターと模型を準備する					
☆担当教員の実務経験		①歯科医師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする ②歯科技工士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする					

授業科目	部分床義歯技工学各論	担当教員	外部講師☆ ①林 亮介	単位数	1	時期	1年次 9月～10月
				時間数	30		
目的と目標	一部歯牙が欠損した口腔の変化を理解し、形態・機能および審美性を回復する部分床義歯の製作に必要な知識と技術を理解する 1 部分床義歯の人工歯排列方法を説明できる 2 歯肉形成における残存歯との関係を説明できる 3 部分床義歯の蠟義歯埋没の種類と方法を列挙できる 4 有床義歯の破折と破損の原因を列挙できる 5 修理方法を説明できる 6 リベース・リラインの目的と方法を説明できる 7 オーバーデンチャーの目的と種類が理解できる 8 金属床の特徴と製作法が理解できる 9 歯牙の欠損に伴う口腔内の変化を理解できる						
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員		
1, 2 3, 4 5, 6 7, 8 9, 10 11, 12 13, 14 15	部分床義歯の人工歯排列、削合、歯肉形成 部分床義歯の埋没と重合 部分床義歯の咬合調整と研磨 修理 オーバーデンチャー 金属床義歯 印象採得・咬合採得 試験（1時間） まとめ（1時間）	前歯部人工歯排列・臼歯部人工歯排列 削合・歯肉形成 加熱重合法、流し込み法 咬合調整 研磨 破折・破損の原因 義歯床・人工歯・支台装置の修理、増歯、形態的分類 オーバーデンチャーの意義と問題点、根面板 金属床義歯の利点と欠点、種類 部分欠損の経時的な口腔変化 印象採得の準備・手順 印象採得の体験 石こうの注入		講義          実習    試験 講義	外部講師 (林 亮介)		
評価方法	筆記試験 授業内容の確認テストが行われる 演習内容は評価に含まれない						
参考文献と資料	最新歯科技工士教本 有床義歯技工学（全国歯科技工士教育協議会編）						
事前準備や受講要件等	必要に応じてプロジェクターを準備する						
☆担当教員の実務経験	①歯科医師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする						

授業科目	部分欠損の印象採得に関わる歯科技工	担当教員	専任教員☆ 恒川 康成 ①野津 尚哉	単位数	1	時期	1年次 12月～2月
				時間数	45		
目的と目標	部分床義歯の製作過程を理解するために研究用模型から作業用模型の製作までの技工技術を修得する 部分床義歯の概形印象に伴う技工操作を修得する 1 部分欠損症例の研究用模型が製作できる 2 部分欠損症例の個人トレーが説明できる 3 有歯顎の個人トレーが製作できる 4 口蓋プレートを着用し義歯の異物感を体感できる						
回数	学習課題	内 容		方法	担当教員		
1, 2 3, 4 5, 6 7, 8 9, 10 11, 12 13, 14 15, 16 17, 18 19, 20 21, 22 23	平行模型の製作     個人トレーの製作    マウスピース   模型観察 評価	石こう台の盛り付け 外形のトリミング 外形の修正 辺縁のトリミング 仕上げ 設計、リリース 常温重合レジンの圧接 外形の調整・柄の付着 レジン表面の研磨 完成 目的・レポートの説明 設計・レジン圧接準備 レジンの圧接・外形の修正 装着体験 グループワーク 振り返り		実習	専任教員 (恒川康成) (野津尚哉)		
評価方法	各実習製作物・レポートの作成および基本的実習態度により評価をする						
参考文献と資料	最新歯科技工士教本 有床義歯技工学（全国歯科技工士教育協議会編） 有床義歯技工学 実習の手引き						
事前準備や受講用件等	平行模型およびマウスピースは部分床義歯技工学各論で製作した模型を使用する 必要に応じてプロジェクターを用意する						
☆担当教員の実務経験	① 歯科技工士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする						



授業科目	部分欠損の完成義歯に関わる歯科技工	担当教員	外部講師☆ ①飯田 善弘	単位数	2	時期	1年次 4月～12月
				時間数	90		
目的と目標	部分床義歯の製作手順を理解し、その要領および注意事項を理解する 部分床義歯の機能・審美性と咬合様式を理解する 1 部分床義歯の咬合床を製作できる 2 作業用模型を咬合器に装着できる 3 サベイヤーを使用できる 4 クラスプを製作できる 5 人工歯排列ができる 6 歯肉形成ができる 7 部分床義歯の埋没、流蠟および重合ができる 8 部分床義歯を研磨できる						
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員		
1, 2 3, 4 5, 6 7, 8 9, 10 11, 12 13, 14 15, 16 17, 18 19, 20 21, 22 23, 24 25, 26 27, 28 29, 30 31, 32 33, 34 35, 36 37, 38 39, 40 41, 42 43, 44 45	部分床義歯の製作  支台装置の製作  蠟義歯の完成 レジン床義歯の製作	模型調整 基礎床の作製 咬合床の作製 咬合採得・咬合器装着 人工歯排列  サベeing・設計・ブロックアウト 複印象・耐火模型の製作 クラスプワックスアップ・埋没 鋳造研磨 線屈曲 クラスプ鋳造 レストワックスアップ・埋没 鋳造 支台装置研磨 人工歯排列 歯肉形成 埋没前準備・フラスコ埋没 脱蠟・填入 重合 掘出し・研磨 研磨・完成 評価・振り返り		実習	外部講師 (飯田善弘)		
評価方法	実習製作物と実習レポートおよび基本的実習態度により評価をする 中間評価有り						
参考文献と資料	最新歯科技工士教本 有床義歯技工学 (全国歯科技工士教育協議会編) 有床義歯技工学 実習の手引き						
事前準備や受講要件等	実習レポートの作成有 (咬合器装着、支台装置製作、フラスコ埋没・レジン填入)						
☆担当教員の実務経験	①歯科技工士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする						

授業科目	歯冠修復技工学概論	担当教員	外部講師☆	単位数	1	時期	1年次 5月～6月			
			①小川 英志	時間数	30					
目的と目標	<p>歯冠修復物およびブリッジの意義と目的を理解する。人工臓器として必要な修復物の知識と製作を理解して、歯冠の修復と残存歯および口腔機能の保存を考えた修復物を理解する</p> <p>1 歯牙の部分欠損に対して製作する歯冠修復物の特性および製作法を理解できる</p> <p>2 歯の色を理解し、審美性の重要性を理解できる</p> <p>3 歯牙の一部欠損による口腔への影響を考え、その機能を改善する補綴物について理解できる</p> <p>4 ポンティックの粘膜との接触や清掃性の影響について理解できる</p> <p>5 印象採得と模型の製作を体験する</p>									
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員					
1, 2	歯冠修復技工学概論	歯冠修復技工学の意義と目的 臨床的価値		講義	外部講師 (小川英志)					
3, 4	クラウンの概要と種類	クラウンの概要 部分被覆冠・全部被覆冠・ポストクラウン								
5, 6										
7, 8	ブリッジの概要と種類	ブリッジの概要								
9, 10	印象採得と模型の作製	ブリッジの特徴・構成要素・種類								
11, 12	クラウンおよびブリッジの具備条件	研究用模型の作製 生物学的・構造力学的・化学的・審美的要件								
13, 14		印象採得 模型材の注入		実習						
15	試験（1時間） まとめ（1時間）			試験 講義						
評価方法	筆記試験 確認テストが行われるが評価には含まれない 実習は評価に含まれない									
参考文献と資料	最新歯科技工士教本 歯冠修復技工学（全国歯科技工士教育協議会編）									
事前準備や受講要件等	必要に応じてプロジェクターと模型を準備する 資料提示装置を準備する									
☆担当教員の実務経験	①歯科医師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする									

授業科目	歯冠修復技工学各論 I	担当教員	外部講師☆	単位数	1	時期	1年次 7月～9月
			①小川 英志	時間数	30		
目的と目標	<p>歯冠修復物およびブリッジの意義と目的を理解する。人工臓器として必要な修復物の知識と製作を理解して、歯冠の修復と残存歯および口腔機能の保存を考えた修復物を理解する</p> <p>1 歯牙の部分欠損に対して製作する歯冠修復物の特性および製作法を理解できる</p> <p>2 歯の色を理解し、審美性の重要性を理解できる</p> <p>3 歯牙の一部欠損による口腔への影響を考え、その機能を改善する補綴物について理解できる</p> <p>4 ポンティックの粘膜との接触や清掃性の影響について理解できる</p>						
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員		
1, 2	クラウンおよびブリッジの製作順序	臨床ステップの概要 印象採得 研究用模型 トレー		講義	外部講師 (小川英志)		
3, 4		支台築造 プロビジョナルクラウン シェードマッチング					
5, 6		作業用模型 咬合器装着 ワックスアップ					
7, 8		埋没・鋳造作業 連結法 調整 研磨					
9, 10	ポストクラウン	陶材の築盛・焼成クラウンの不具合の原因					
11, 12	ブリッジ	意義・特徴・適応用途 支台装置    ポンティック    連結法					
13, 14	CAD/CAM システム インプラント	システムの構成 インプラントの概要 インプラントと生体 インプラントの種類					
15	試験 (1 時間) まとめ (1 時間)	上部構造製作技工の注意点					
評価方法	筆記試験 確認テストが行われるが評価には含まれない						
参考文献と資料	最新歯科技工士教本 歯冠修復技工学 (全国歯科技工士教育協議会編)						
事前準備や受講要件等	必要に応じてプロジェクターと模型を準備する 資料提示装置を準備する						
☆担当教員の実務経験	① 歯科医師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする						

授業科目	歯冠修復技工学各論Ⅱ	担当教員	専任教員☆	単位数	1	時期	1年次 10月～12月
			① 鷺見 明香 ② 野津 尚哉	時間数	30		
目的と目標	歯冠修復物の意義と目的を理解する。人工臓器として必要な修復物の知識と製作を理解して、歯冠の修復と残存歯および口腔機能の保存を考えた修復物を理解する 1 歯牙の部分欠損に対して製作する歯冠修復物の特性および製作法を理解できる 2 歯科における精密鋳造の基礎知識を理解できる 3 歯の色を理解し、審美性の重要性を理解できる 4 歯牙の一部欠損による口腔への影響を考え、その機能を改善する補綴物について理解できる 5 CAD/CAM システム・インプラントの製作について理解できる 6 診療室での関連行為をとおして患者を理解することができる						
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員		
1, 2 3, 4 5, 6  7, 8  9, 10  11, 12  13, 14  15	修復物の種類と技工 修復物の要件と技工 適合性  前装金属冠  CAD/CAM・インプラント  修復物の説明責任  試験（1時間） まとめ（1時間）	歯冠修復物の種類 必要な要件と歯科技工技術 適合性 印象・模型・原型の精度について 模型と原型の変形について 鋳造精度について 埋没材の組成と性質 歯科合金の鋳造収縮 研磨精度 試適・装着と適合性 硬質レジン前装金属冠 陶材焼付金属冠 ジャケットクラウン レジンジャケットクラウン 陶材ジャケットクラウン オールセラミッククラウン		講義    演習 講義   講義   演習  試験 講義	専任教員 (鷺見明香)            専任教員 (野津尚哉) 専任教員 (鷺見明香)		
評価方法	筆記試験 授業の理解度を確認するために小テストを実施（評価に含まれない）						
参考文献と資料	最新歯科技工士教本 歯冠修復技工学 歯科理工学（全国歯科技工士教育協議会編）						
事前準備や受講要件等	必要に応じてプロジェクターを準備する 演習については事前に課題が出ることがある。準備を整えて授業に取り組む						
☆担当教員の実務経験	①歯科技工士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする ②歯科技工士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする						

授業科目	被覆冠に関わる歯科技工	担当教員	外部講師☆ ①松永 悟	単位数	1	時期	1年次 4月～7月	
				時間数	45			
目的と目標	歯冠修復物の種類を理解し、全部金属冠の製作時の要領と注意事項を理解する 1 ロストワックス法による鑄造技術を説明できる 2 作業用模型を製作できる 3 咬合器に作業用模型を装着できる 4 全部金属冠製作に必要な技術を理解できる 1) ワックスアップができる 2) 埋没鑄造ができる 3) 研磨ができる 5 歯科技工に必要な取り組みができる 1) 身なりを整えることができる 2) 作業環境を整えることができる							
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員			
1, 2	基本実習	ワックスインストルメントの操作法		実習	外部講師 (松永 悟)			
3, 4	模型製作	歯型での全部鑄造冠の製作 1次石こうの注入 ダウエルピンの植立						
5, 6	全部金属冠の製作	2次石こうの注入・模型調整		講義				
7, 8		歯型調整・咬合器装着						
9, 10		蝟型採得						
11, 12								
13, 14		スプルー線植立・埋没						
15, 16		鑄造						
17, 18		適合						
19, 20		研磨						
21, 22		完成	完成					
23		評価						
評価方法	各実習製作物および基本的実習態度により評価をする							
参考文献と資料	最新歯科技工士教本 歯冠修復技工学（全国歯科技工士教育協議会編） 歯冠修復技工学 実習の手引き							
事前準備や受講要件等								
☆担当教員の実務経験	①歯科技工士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする							

授業科目	テンポラリークラウンに関わる歯科技工	担当教員	専任教員☆ ②野津 尚哉	単位数	1	時期	1年次 11月～12月
				時間数	30		
目的と目標	支台築造体と暫間被覆冠の製作過程を理解するために作業用模型の製作から完成までの技工技術を修得する 1 歯型固着式模型が調整できる 2 作業用模型の保存の重要性が理解できる 3 支台築造体を製作できる 1) ポストの蝟型採得ができる 2) 前装冠を想定した支台形態が理解できる 3 常温重合レジンによるテンポラリークラウンの製作手順が理解できる 1) シリコンコアによるテンポラリークラウンの製作ができる 2) 常温重合レジンの取り扱いができる 4 実習を振り返り、レポートが作成できる						
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員		
1, 2	模型作製	歯型調整・咬合器装着		実習	専任教員 (野津尚哉)		
3, 4		合釘圧接・蝟型採得 (模刻)					
5, 6		シリコンコア採得・蝟型採得 (支台形成)					
7, 8		スプルー線植立・埋没・鋳造					
9, 10	支台築造体の製作	適合・研磨・ブロックアウト					
11, 12		レジン築盛・形態修正					
13, 14		研磨					
15	テンポラリークラウンの製作	完成 評価と振り返り		演習			
評価方法		各実習製作物とレポート課題および基本的実習態度により評価をする					
参考文献と資料		最新歯科技工士教本 歯冠修復技工学 (全国歯科技工士教育協議会編) 歯冠修復技工学 実習の手引き					
事前準備や受講要件等		必要に応じてモニターを用意する 実習レポートの作成有					
☆担当教員の実務経験		①歯科技工士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする					

授業科目	部分修復に関わる 歯科技工	担当教員	外部講師☆ ① 山田 雅子	単位数	1	時期	1年次 9月～12月
				時間数	45		
目的と目標	歯冠修復物の種類を理解し、部分被覆冠の製作時の要領と注意事項を理解する 1 作業用模型を製作できる 2 咬合器に作業用模型を装着できる 3 部分被覆冠のワックスアップができる 4 部分被覆冠の埋没・鋳造ができる 5 部分被覆冠の研磨ができる 6 正確な計量を行うことができる 7 模型の重要性が理解できる 8 作業に合わせた環境整備に取り組むことができる						
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員		
1, 2	模型作製	ダウエルピンの植立 2次石こうの注入		実習	外部講師 (山田雅子)		
3, 4	部分被覆冠の製作	模型調整・歯型調整					
5, 6		咬合器装着					
7, 8		蠟型採得					
9, 10		スプルー線植立・埋没					
11, 12	完成	蠟型採得・鋳造・適合		講義			
13, 14		スプルー線植立・埋没					
15, 16		鋳造・適合					
17, 18	評価	複模型作製・研磨					
19, 20		完成					
21, 22							
23							
評価方法	各実習製作物および基本的実習態度により評価をする						
参考文献と資料	最新歯科技工士教本 歯冠修復技工学（全国歯科技工士教育協議会編） 歯冠修復技工学 実習の手引き						
事前準備や受講要件等	模型を一次石こう注入まで準備する						
☆担当教員の実務経験	① 歯科技工士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする						

授業科目	前装冠に関わる歯科技工	担当教員	外部講師☆	単位数	1	時期	1 学年 12 月～2 月					
			①安達健太郎 専任教員☆	時間数	45							
			②北川 洋哉									
目的と目標	歯冠修復物の種類を理解し、レジン前装冠の製作時の要領と注意事項を理解する 1 前装冠に求められる作業用模型を製作できる 2 レジン前装冠の金属フレーム形態が理解できる 3 レジン維持装置の付与が適切にできる 4 顕微鏡を使用して金属フレームの調整ができる 5 レジンと金属の接着ができる 6 前装冠に適したレジンの築盛操作ができる 7 金属とレジンの移行部が滑らかで明確にできる 8 一人で埋没・鋳造操作ができる											
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員							
1, 2	模型作製             レジン前装金属冠の製作	ダウエルピン植立・二次石こう注入		実習	外部講師 (安達健太郎) 専任教員 (北川洋哉)							
3, 4		歯型調整・咬合器装着										
5, 6		蠟型採得										
7, 8		石こうコア採得										
9, 10		窓開け・維持装置付与										
11, 12		スプルー線植立・埋没										
13, 14		鋳造・適合										
15, 16		鋳造体修正・粗研磨										
17, 18		レジン築盛										
19		形態修正										
20, 21		研磨										
22, 23		完成 評価						講義				
評価方法		各実習製作物および基本的実習態度により評価をする										
参考文献と資料		最新歯科技工士教本 歯冠修復技工学（全国歯科技工士教育協議会編） 歯冠修復技工学 実習の手引き										
事前準備や受講要件等		模型を一次石こう注入まで準備する										
☆担当教員の実務経験		①歯科技工士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする ②歯科技工士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする										



授業科目	原型製作技術	担当教員	専任教員☆ 恒川 康成 ① 野津 尚哉	単位数	1	時期	1 年次 11 月～1 月				
				時間数	30						
目的と目標	<p>審美性を求められる前装冠製作過程のなかで重要な歯冠形態を学ぶために形態再現技術を修得する 天然歯の表面性状を学び、原型製作技術の評価法を習得する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 連続する前歯部歯冠形態の特徴を説明できる</li> <li>2 歯型可撤式模型の特徴が理解できる</li> <li>3 歯冠の基本 3 形態の特徴が理解できる</li> <li>4 連続した前歯部歯冠形態を表現できる</li> <li>5 歯の構造に合わせた製作手順で製作できる</li> <li>6 連続した歯列の歯冠形態からスマイリングラインを観察できる</li> <li>7 対称性のある歯冠形態を表現できる</li> </ol>										
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員						
1, 2	模型作製           原型製作	模型製作・調整		実習	専任教員 (恒川康成) (野津尚哉)						
3, 4		歯列模型の観察方法 (調和した歯列形態) 反対側同名歯の観察法 デッサン		講義							
5, 6		ワックスアップ 構造からの盛り上げ手順		実習							
7, 8		ワックスアップ 顎運動と切縁形態									
9, 10		ワックスアップ									
11, 12		ワックスアップ 歯冠形態・表面性状									
13, 14		試験	試験					講義			
15		評価	完成・評価と振り返り					実習			
評価方法		<p>実習製作物 (75%)、筆記試験 (15%) および基本的実習態度 (10%) により評価をする 提出物が期限に遅れた場合は減点の対象となる 筆記試験は、講義内容及び配布資料から出題される</p>									
参考文献と資料		<p>最新歯科技工士教本 歯冠修復技工学 口腔・顎顔面解剖学 (全国歯科技工士教育協議会編) 歯冠修復技工学、歯の解剖学 実習の手引き 講義に必要な資料は配布する</p>									
事前準備や受講要件等		<p>各歯牙の形態的特徴を十分に理解して授業に臨む 必要に応じてプロジェクターを用意する</p>									
☆担当教員の 実務経験		<p>① 歯科技工士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする</p>									

授業科目	連続する修復に関わる 歯科技工	担当 教員	専任教員☆ ① 鷺見 明香 ② 野津 尚哉	単位数	1	時期	1年次 9月～10月
				時間数	45		
目的と 目標	連続する全部金属冠の製作過程を理解するために作業用模型の製作から完成までの技工技術および 技工操作を修得する 1 連続する臼歯部形態を製作できる 2 顕微鏡を使用した技工技術を学ぶ 3 隣接・咬合コンタクトの調整ができる 4 固定ろう付け法による連結ができる 5 清掃性を考慮して製作ができる 6 授業の取り組みを自己評価できる						
回数	学習課題	内 容		方 法		担当教員	
1, 2 3, 4 5, 6 7, 8 9, 10 11, 12 13, 14 15, 16 17, 18 19, 20 21, 22 23	模型作製 原型製作     鑄造   完成	歯型調整・咬合器装着 蝟型採得  スプルー線植立・埋没 鑄造・適合 コンタクト調整・粗研磨 石こうコア採得・埋没 鑲着 研磨・完成 評価		実習		専任教員 (鷺見明香) (野津尚哉)	
評価方法	各実習製作物とレポート課題および基本的実習態度により評価をする						
参考文献 と資料	最新歯科技工士教本 歯冠修復技工学 (全国歯科技工士教育協議会編) 歯冠修復技工学 実習の手引き						
事前準備や 受講要件等	被覆冠に関わる歯科技工の実習製作物および作業用模型を使用する 必要に応じてプロジェクターを用意する 実習レポートの作成有						
☆担当教員 の実務経験	① 歯科技工士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする ② 歯科技工士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする						

授業科目	ブリッジに関わる 歯科技工	担当 教員	外部講師☆	単位数	2	時期	1 年次 11 月～2 月
			①小澤 真悟 専任教員☆	時間数	90		
②鷺見 明香	ブリッジの意義と目的およびブリッジ製作時の要領と注意事項を理解する 1 ブリッジ製作手順と注意点について理解できる 2 連続した歯冠形態を表現できる 3 咬合力を考慮した橋体が製作できる 4 チェックバイトによる咬合器装着ができる 5 リッジラップ型ポンティックを製作できる 6 ワンピース法によるブリッジを製作できる 7 硬質レジン操作を説明できる 8 清掃性を考慮したブリッジの製作ができる 9 適合精度の向上に向けて課題があげられる						
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員		
1, 2 3, 4 5, 6 7, 8 9, 10 11, 12 13, 14 15, 16 17, 18 19, 20 21, 22 23, 24 25, 26 27, 28 29, 30 31, 32 33, 34 35, 36 37, 38 39, 40 41, 42 43, 44 45	ブリッジの製作法 ブリッジの製作	各構成要素と製作方法および注意点 模型作製 歯型調整 咬合器装着 支台装置蠟型採得  ポンティック（鞍状型）蠟型採得  シリコーンコア採得 基底面形成（リッジラップ型）・連結 スプルー線植立・埋没 鑄造 適合 金属部研磨 硬質レジン築盛 形態修正 研磨 完成 シェードマッキング 評価 まとめ		講義 実習          演習  講義	専任教員 (鷺見明香) 外部講師 (小澤真悟)		
評価方法		実習製作物と基本的実習態度および理解度確認により評価をする					
参考文献 と資料		最新歯科技工士教本 歯冠修復技工学（全国歯科技工士教育協議会編） 歯冠修復技工学 実習の手引き					
事前準備や 受講要件等		模型を一次石こう注入まで準備する					
☆担当教員 の実務経験		①歯科技工士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする ②歯科技工士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする					

授業科目	セラミックスに関わる 歯科技工	担当教員	外部講師☆ ①新川 哲矢	単位数	1	時期	2年次 4月～7月
				時間数	45		
目的と目標	歯冠修復物の種類を理解し、陶材焼付金属冠の製作時の要領と注意事項を理解する 1 症例に合わせた作業用模型ができる 2 金属冠のメタルフレーム形態が理解できる 3 歯科用陶材の築盛環境を整える 4 歯科用陶材が適切に築盛・焼成できる 5 前歯部形態修正の要点が理解できる						
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員		
1, 2 3, 4 5, 6 7, 8 9, 10 11, 12 13, 14 15, 16 17, 18 19, 20 21, 22 23	陶材焼付金属冠の製作  金属フレームの製作  陶材の築盛  完成	模型調整・歯型調整 咬合器装着 模刻・シリコンコア採得 窓開け・スプルー線植立・埋没 鋳造・適合・メタル調整 オパークの築盛、焼成 サービカル色陶材築盛焼成 ボディ色陶材築盛カットバック・焼成 ボディ色陶材築盛エナメル色陶材築盛焼成 コンタクト調整 形態修正 追加焼成・形態修正 グレーズ焼成 完成		実習	外部講師 (新川哲矢)		
評価方法	実習製作物および基本的実習態度により評価をする						
参考文献と資料	最新歯科技工士教本 歯冠修復技工学（全国歯科技工士教育協議会編） 歯冠修復技工学 実習の手引き						
事前準備や受講要件等	模型を一次石こう注入まで準備する 必要に応じて大型モニターを用意する						
☆担当教員の実務経験	①歯科技工士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする						

授業科目	デジタル技術に関わる 歯科技工	担当 教員	外部講師	単位数	1	時期	2年次 5月～6月
			堀 美喜 堀 直介				
目的と目標	デジタル技術による全部金属冠の製作過程を理解するために器械による製作の技工操作を修得する 1 作業模型の読み取りができる 2 器械本体の操作をして症例に合わせて修復物を設計ができる 3 デジタル加工の特徴を理解できる						
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員		
1, 2  3, 4  5, 6  7, 8 9, 10  11, 12 13, 14  15	はじめに CAD/CAM システム    モデリングソフト   まとめ 試験	歯科技工用 CAD の構成 スキャナーと CAD ソフト 基本操作 製作基本情報の入力 模型のスキャニング 被覆冠の設計   3D モデリングの基本操作 STL の取 り扱い 操作演習   口腔内スキャナの基本 モデリングデータの応用		演習	外部講師 (堀 美喜) (堀 直介)		
評価方法	筆記試験・モデリング						
参考文献 と資料	Blender (3D モデリングソフト)						
事前準備や 受講要件等	記録媒体 (USB) 必要に応じてプロジェクターを用意する						
☆担当教員 の実務経験							

授業科目	矯正歯科技工学	担当 教員	外部講師☆	単位数	1	時期	2年次 4月～6月				
			①浅井 農	時間数	30						
目的と目標	矯正治療の意義と特殊性を理解し、矯正歯科技工をおこなうのに必要な知識を理解する 1 矯正歯科治療の意義と目的を説明できる 2 矯正歯科治療における正常咬合と不正咬合について説明できる 3 矯正歯科技工に用いる器械・器具名と材料を列挙し、それらの特徴が理解できる 4 矯正歯科技工における基本的手技が理解できる 5 矯正用口腔模型の種類と特徴が説明できる 6 矯正装置の必要条件と分類を説明できる 7 各種動的矯正装置の目的と構成および製作法が理解できる 8 各種保定装置の目的と構成および製作法が理解できる										
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員						
1, 2	矯正歯科治療とは 矯正歯科技工学の意義と目的 正常咬合と不正咬合	矯正歯科治療とは 矯正歯科技工学の意義と目的 正常咬合 不正咬合（異常咬合）		講義	外部講師 (浅井 農)						
3, 4	矯正治療の進め方	矯正歯科治療の流れと歯科技工の関わり 症例分析・矯正診断 動的矯正治療・保定（静的矯正治療）		演習を含む 演習を含む 講義							
5, 6	矯正技工用器具と器械 矯正技工の基本的手技	矯正技工用器具と器械 矯正用線の屈曲 自在ろう付け 矯正用常温重合レジンの使用法									
7, 8											
9, 10	矯正装置製作法	舌側弧線装置 顎間固定装置 咬合挙上板 咬合斜面版 ホーレーの保定装置 アクチバートル（FK0） バイオネーター									
11, 12	矯正用口腔模型の製作 矯正装置の必要条件と分類	矯正用口腔模型の種類と特徴 矯正用口腔模型の製作法 矯正装置の必要条件・分類 ナンスのホールディングアーチ 可撤式拡大装置・固定式拡大装置 ヘッドギア・オトガイ帽装置・上顎前方 牽引装置 リップバンパー マルチブラケット装置 フレンケルの装置									
13, 14	保定装置	ホーレーの保定装置 ラップアラウンドリテーナー トゥースポジショナー スプリングリテーナー 下顎犬歯間リテーナー									
15	試験（1時間） まとめ（1時間）							試験 講義			
評価方法	筆記試験										
参考文献 と資料	最新歯科技工士教本 矯正歯科技工学（全国歯科技工士教育協議会編）										
事前準備や 受講要件等	必要に応じてプロジェクターを準備する 演習用の模型を準備する										
☆担当教員 の実務経験	①歯科医師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする										

授業科目	矯正歯科に関わる 歯科技工	担当 教員	外部講師☆ ① 西垣 勲	単位数	1	時期	2年次 7月～10月				
				時間数	30						
目的と目標	矯正歯科技工物製作のために基本的手技を学ぶ 矯正歯科装置の目的およびその作用を理解し、製作時の注意事項を理解する 1 基本的手技の線屈曲ができる 2 自在鑲付けができる 3 矯正用レジンで矯正装置の床部を形成できる 4 舌側弧線装置を製作できる 5 ホーレーの保定装置を製作できる										
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員						
1, 2	矯正線の屈曲	線の屈曲法		実習	外部講師 (西垣 勲)						
3, 4	舌側弧線装置	バンドの適合・チューブのろう着									
5, 6		主線の屈曲・ST ロックの脚部の屈曲									
7, 8		ろう着・研磨・完成									
9, 10	ホーレーの保定装置	設計・接歯唇側線の屈曲									
11, 12		レジンの築盛・形態修正・研磨									
13, 14		完成									
15		評価									
評価方法	各実習製作物の評点および基本的実習態度により評価をする										
参考文献と資料	最新歯科技工士教本 矯正歯科技工学（全国歯科技工士教育協議会編）										
事前準備や受講要件等	必要に応じてプロジェクターを準備する 模型を準備する										
☆担当教員の実務経験	①歯科技工士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする										

授業科目	小児歯科技工学	担当教員	外部講師☆ ①辻 甫	単位数	1	時期	1年次 11月～2月
				時間数	15		
目的と目標	小児歯科の特徴を理解し、小児歯科技工をおこなうのに必要な知識を理解する 1 歯・顎顔面の成長発育の過程を理解できる 2 小児の成長発育に合わせた小児歯科装置の特徴を理解できる 3 各種小児歯科装置の特徴を理解できる						
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員		
1, 2	小児歯科技工概説 歯・顎・顔面の成長発育	乳歯列期の場合 混合歯列期の場合 成長発育段階と年齢 顎顔面の成長発育		講義	外部講師 (辻 甫)		
3, 4	小児の歯冠修復  咬合誘導装置の種類	歯と歯列の発育 小児の歯冠修復の特徴 小児の歯冠修復の種類 咬合誘導の概念 咬合誘導装置の種類					
5, 6	保劇装置	必要条件と分類 クラウンループ保隙装置 バンドループ保隙装置 ディスタルシュー保隙装置 舌側弧線型保隙装置 ナンスのホールディングアーチ 可撤保隙装置					
7	スペースリゲイナー 口腔習癖除去装置 咬合誘導装置に用いる維持装置	目的・スペースリゲイナーの製作法 口腔習癖の種類 装置の種類 アダムス・シュワルツのクラスプ 唇側線・単純鉤 ボールクラスプ					
8	試験	試験		試験			
評価方法	筆記試験						
参考文献と資料	最新歯科技工士教本 小児歯科技工学（全国歯科技工士教育協議会編）						
事前準備や受講要件等							
☆担当教員の実務経験	①歯科医師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする						



授業科目	小児歯科に関わる 歯科技工	担当 教員	外部講師☆ ①辻 甫	単位数	1	時期	1年次 11月～2月
				時間数	30		
目的 と 目標	固定式・可撤式保隙装置の製作方法と注意事項を理解する スペースリゲイナーの設計・製作時の注意事項を理解する 1 小児歯科の特性を理解した設計を理解できる 2 小児歯科装置とその維持装置を理解し、製作方法を身につける 3 完成した修復物を正しく分析・評価することができる						
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員		
1, 2  3, 4  5, 6  7, 8  9, 10  11, 12  13, 14  15	クラウンループ    可撤式保隙装置    スペースリゲイナー	模型の製作・乳歯冠の適合  ループの屈曲  ろう着・研磨  唇側線・レストの屈曲  常温重合レジンの盛り上げ  人工歯排列・研磨  アダムスのクラスプ・スプリングの屈曲 評価		実習	外部講師 (辻 甫)		
評価方法	各実習製作物（クラウンループ、可撤式保隙装置、スペースリゲイナー）で評価						
参考文献 と資料	最新歯科技工士教本 小児歯科技工学（全国歯科技工士教育協議会編）						
事前準備や 受講要件等	教本および配布された実習書を持参する 常温重合レジンの筆を準備する						
☆担当教員 の実務経験	①歯科医師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする						

授業科目	全部床義歯に関わる 歯科技工	担当 教員	外部講師☆ ①後藤 郁哉	単位数	1	時期	2年次 9月～12月				
			専任教員☆ ①北川 洋哉	時間数	45						
目的と目標	<p>歯科技工の基礎的知識と技術に基づき臨床的な症例に応じた歯科技工を実践する。 全部床義歯による臨床的模型の修復をするために模型の分析をし問題点、ニーズを明確化して計画の作成を学ぶ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 患者情報と症例模型の観察・分析ができる</li> <li>2 維持を考慮した設計や咬合様式の特徴を実現できる実習計画が作成できる</li> <li>3 審美性を考慮した上下顎全部床義歯を製作できる</li> <li>4 適合精度を考慮したレジン床義歯の製作ができる</li> <li>5 安定した上下顎全部床義歯の咬合様式を理解できる</li> <li>6 実習内容を振り返り、学習内容をまとめて報告書を作成することができる</li> </ol>										
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員						
1, 2	模型の観察、分析	グループワーク 患者情報の分析		実習	外部講師 (後藤郁哉) 専任教員 (北川洋哉)						
3, 4	全部床義歯の製作	人工歯排列									
5, 6											
7, 8											
9, 10											
11, 12		歯肉形成・蠟義歯完成									
13, 14		フラスコ埋没									
15, 16		脱蠟・レジン填入・重合									
17, 18		掘出し・咬合器再装着・削合									
19, 20		研磨									
21, 22		完成・自己評価									
23		評価・意見交換・指導									
評価方法	各実習製作物とレポート課題および基本的実習態度により評価をする 中間評価有り										
参考文献 と資料	最新歯科技工士教本 有床義歯技工学（全国歯科技工士教育協議会編） 有床義歯技工学 実習の手引き										
事前準備や 受講用件等	咬合採得に関わる歯科技工で咬合器装着された模型を使用する										
☆担当教員 の実務経験	①歯科技工士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする ②歯科技工士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする										

授業科目	咬合採得に関わる 歯科技工	担当 教員	外部講師☆ ① 三輪 俊太 ② 安部 佐織 ③ 片桐 大佑 専任教員 恒川 康成	単位数	1	時期	2年次 4月～7月
			時間数	45			
目的と目標	<p>歯科技工の基礎的知識と技術に基づき臨床的な症例に応じた歯科技工を実践する 有床義歯による修復をするために模型の分析し、咬合採得のために必要な装置の製作を学ぶ 高齢者歯科学を学び、加齢に伴う口腔内及び全身の健康の変化と影響を理解する。また、口腔機能の回復により全身の健康回復に寄与することを学ぶ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 無歯顎の咬合床が製作できる</li> <li>2 部分欠損の顎堤における咬合採得において安定した咬合床を製作できる</li> <li>3 実習内容の振り返りができる</li> <li>4 模型の観察と分析ができる</li> <li>5 加齢による全身及び口腔内組織の変化を理解できる</li> <li>6 口腔機能の回復と全身の健康のつながりと義歯の役割を理解できる</li> <li>7 ノンクラスプデンチャーの基礎が理解できる</li> </ol>						
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員		
1, 2 3, 4 5, 6 7, 8 9, 10 11, 12 13, 14 15, 16 17, 18 19, 20 21, 22 23	全部床義歯の咬合床 (1症例・後期義歯製作)  高齢者歯科学  口腔機能と義歯の関わり 部分床義歯の咬合床 (1症例)  ノンメタルクラスプデン チャー まとめ	外形線の記入・サベージング ブロックアウト・基礎床の製作 咬合堤の作製 咬合採得咬合器装着 義歯の設計 咬合三角 咬合採得の重要性 外形線の記入 サベージング ブロックアウト 基礎床の製作 咬合堤の作製 講義・設計 評価		実習    講義   実習   講義	外部講師 (片桐大佑) 専任教員 (恒川康成) 外部講師 (三輪俊太) (安部佐織) 外部講師 (恒川康成)  専任教員 (恒川康成)		
評価方法	各実習製作物とレポート・報告書および基本的実習態度について評価する85% 実習物の中間評価を行う 高齢者歯科については筆記試験有15%						
参考文献 と資料	歯科衛生士講座 高齢者歯科学 最新歯科技工士教本 歯冠修復技工学 (全国歯科技工士教育協議会編) 歯冠修復技工学 実習の手引き						
事前準備や 受講要件等	授業は教室または歯科技工実習室で行う 必要に応じてプロジェクターまたは大型モニターを用意する 症例報告書または実習レポートの作成有						
☆担当教員 の実務経験	① 歯科医師として医療機関にお勤務した経験を生かした授業展開をする ② 歯科医師として医療機関にお勤務した経験を生かした授業展開をする ③ 歯科技工士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする						

授業科目	部分床義歯に関わる 歯科技工Ⅰ	担当教員	外部講師☆ ①三浦 千景	単位数	1	時期	2年次 4月～7月					
			専任教員☆ ②北川 洋哉	時間数	45							
目的と目標	歯科技工の基礎的知識と技術に基づき臨床的な症例に応じた歯科技工を実践する 部分床義歯による臨床的模型の修復をするために模型の分析し問題点、ニーズを明確化して計画の作成を学ぶ 1 残存歯・欠損部粘膜面など模型面の観察ができる 2 義歯設計の意図を患者情報に配慮した義歯の計画ができる 3 計画に沿った設計と方法で義歯の製作ができる 4 高融点合金による支台装置の製作ができる 5 流し込みレジンによる義歯の製作ができる											
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員							
1, 2	上顎部分床義歯の製作	模型観察 模型調整・咬合床製作		実習	外部講師 (三浦千景) 専任教員 (北川洋哉)							
3, 4		咬合床製作・咬合採得										
5, 6		咬合器装着、サベイング・設計										
7, 8		支台装置の製作										
9, 10		支台装置・連結子の製作										
11, 12		支台装置・連結子の製作										
13, 14		人工歯排列										
15, 16		歯肉形成・埋没前準備 コアの製作										
17, 18		脱蠟填入・重合										
19, 20		研磨										
21, 22		義歯の適合性	完成									
23			評価									
評価方法		実習製作物とレポート・報告書および基本的実習態度について評価する										
参考文献と資料		最新歯科技工士教本 有床義歯技工学（全国歯科技工士教育協議会編） 有床義歯技工学 実習の手引き										
事前準備や受講要件等		必要に応じて大型モニターを準備する 模型を準備しておく 症例報告書または実習レポートの作成有										
☆担当教員の実務経験		①歯科技工士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする ②歯科技工士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする										

授業科目	部分床義歯に関わる 歯科技工Ⅱ	担当 教員	外部講師☆ ① 秋田 裕明	単位数	1	時期	2年次 9月～12月
			専任教員☆ ② 北川洋哉	時間数	45		
目的と目標	既習の有床義歯技工学などの基礎歯科技工を臨床と結びつけながら理解を深め、実践能力を養うための臨床的模型による実習をとおして歯科技工士としての必要な技術と知識および姿勢を身につける 1 患者情報などを分析・検討して義歯の設計ができる 2 修理などメンテナンスを考慮した義歯を検討できる 3 義歯の維持安定を検討できる 4 審美性を回復できる 5 目的に合わせた製作方法を選択できる 6 実習内容の振り返りができる						
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員		
1, 2 3, 4 5, 6 7, 8 9, 10 11, 12 13, 14 15, 16 17, 18 19, 20 21, 22 23	上顎部分床義歯の製作             評価と振り返り	患者情報の分析と義歯の設計 模型調整 咬合採得・咬合器装着 サバーイング・設計 支台装置の作製 連結子の作製・研磨 人工歯排列・歯肉形成 埋没前準備・下部埋没 埋没・脱蠟 填入・重合 研磨 完成		実習	外部講師 (秋田裕明) 専任教員 (北川洋哉)		
評価方法	実習製作物と報告書および基本的実習態度について評価する						
参考文献と資料	最新歯科技工士教本 有床義歯技工学 (全国歯科技工士教育協議会編) 有床義歯技工学 実習の手引き						
事前準備や受講要件等	各自情報アセスメントを実施し設計の準備をする 義歯の製作に必要な歯科技工技術、製作手順を確認して取り組む 設計のレポート、症例報告書の作成有						
☆担当教員の実務経験	① 歯科医師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする ② 歯科技工士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする						

授業科目	金属床義歯に関わる歯科 技工	担当 教員	外部講師☆ ① 久世 康正	単位数	1	時期	2年次 4月～7月				
			専任教員☆ ② 鷺見 明香	時間数	45						
目的と 目標	歯科技工の基礎的知識と技術に基づき臨床的な症例に応じた歯科技工を実践する 金属床フレームによる臨床的模型の修復をする 1 金属床フレームによる義歯設計が理解できる 2 金属床フレームの製作手順と方法が理解できる 3 高融点合金による大型鑄造の埋没・鑄造ができる										
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員						
1, 2	模型の観察と分析	金属床義歯の特徴 合理的な義歯の設計		実習	外部講師 (久世康正) 専任教員 (鷺見明香)						
3, 4	模型作製	サベイング 設計									
5, 6		ブロックアウト・リリース 複印象									
7, 8		耐火模型の製作									
9, 10		ワックスアップ									
11, 12		スプルー線植立									
13, 14		埋没									
15, 16		鑄造									
17, 18		サンドブラスト スプルーカット									
19, 20		粗研磨									
21, 22		電解研磨									
23	振返り	中研磨 仕上げ研磨						講義			
評価方法	実習製作物とレポート・報告書および基本的実習態度について評価する 中間評価有り										
参考文献 と資料	有床義歯技工学 実習の手引き										
事前準備や 受講要件等	設計案の提出 症例報告書または実習レポートの作成有										
☆担当教員 の実務経験	①歯科技工士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする ②歯科技工士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする										

授業科目	支台築造に関わる歯科 技工	担当 教員	外部講師☆ ① 大橋 秀也	単位数	1	時 期	2年次 4月～7月
			専任教員☆ 恒川 康成 ② 野津 尚哉	時間数	45		
目的と目標	<p>既習の歯冠修復技工学などの基礎歯科技工を臨床と結びつけながら理解を深め、実践能力を養うための臨床的模型による実習をとおして歯科技工士としての必要な技術と知識および姿勢を身につける</p> <p>症例の観察ができる</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 最終修復物の計画が理解できる</li> <li>2 現状・将来リスクから残存組織保護を検討できる</li> <li>3 ブリッジ製作のための支台築造ができる</li> <li>4 低融点合金の鋳造ができる</li> <li>5 ファイバーコアの製作法が説明できる</li> <li>6 プロビジョナルブリッジの製作法が説明できる</li> <li>7 実習内容の振り返りができる</li> </ol>						
回数	学習課題	内 容		方 法	担 当 教 員		
1, 2	作業用模型製作	作業用模型製作・歯型調整・咬合器装着		実習	外部講師 (大橋秀也) 専任教員 (恒川康成) (野津尚哉)		
3, 4	支台築造	診断用ワックスアップ					
5, 6		シリコンコア製作・蝸型採得・埋没					
7, 8		鋳造・適合・研磨・完成					
9, 10		低融点合金の鋳造					
11, 12	プロビジョナルブリッ	ブロックアウト・レジン築盛					
13, 14	ジの製作	形態修正					
15, 16		研磨・完成					
17, 18	ファイバーコアの製作	ファイバーの試適・レジンの築盛					
19, 20		適合・研磨・完成					
21, 22		テンポラリークラウンの製作 (人工歯)		講義			
23		評価					
評価方法	各実習製作物とレポート・報告書および基本的実習態度により評価をする						
参考文献と資料	最新歯科技工士教本 歯冠修復技工学 (全国歯科技工士教育協議会編) 歯冠修復技工学 実習の手引き インレー・コア・クラウンのコツとツボ						
事前準備や受講要件等	実習レポートの作成有						
☆担当教員の実務経験	①歯科医師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする ②歯科技工士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする						

授業科目	歯冠修復に関わる 歯科技工Ⅰ	担当 教員	外部講師☆ ①夏目 克彦	単位数	1	時期	2年次 4月～7月				
			専任教員☆ ②野津尚哉	時間数	45						
目的と目標	<p>既習の歯冠修復技工学などの基礎歯科技工を臨床と結びつけながら理解を深め、実践能力を養うための臨床的模型による実習をとおして歯科技工士としての必要な技術と知識および姿勢を身につける</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 患者に関する情報収集ができる</li> <li>2 適合精度向上のために対策がとれる <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 模型精度、原型精度、鋳造精度</li> <li>2) 研磨精度</li> </ol> </li> <li>3 症例に合わせた咬合関係を検討できる</li> <li>4 口腔内組織の保護を検討できる</li> <li>5 高融点合金の埋没・鋳造ができる</li> <li>6 金属冠の調整（適合、隣接、咬合関係）ができる</li> <li>7 完成物の洗浄・消毒ができる</li> </ol>										
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員						
1, 2	全部金属冠および	グループワーク		実習	外部講師 (夏目克彦) 専任教員 (野津尚哉)						
3, 4	部分被覆冠の製作	模型調整・歯型調整									
5, 6		咬合器装着・蠟型採得									
7, 8											
9, 10		スプルー線植立・埋没									
11, 12		埋没・鋳造									
13, 14		研磨・完成									
15, 16	全部金属冠	歯型調整・蠟型採得									
17, 18		埋没・鋳造									
19, 20		適合・コンタクト調整									
21, 22		研磨									
23	評価	自己評価・グループワーク						講義			
評価方法	各実習製作物とレポート・報告書および基本的実習態度について評価する										
参考文献 と資料	最新歯科技工士教本 歯冠修復技工学（全国歯科技工士教育協議会編） 歯冠修復技工学 実習の手引き インレー・コア・クラウンのコツとツボ										
事前準備や 受講要件等	模型を一次石こう注入まで準備 実習レポートまたは症例報告書の作成有										
☆担当教員 の実務経験	①歯科技工士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする ②歯科技工士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする										



授業科目	歯冠修復に関わる 歯科技工Ⅱ	担当 教員	外部講師☆ ① 長谷部和弘	単位数	1	時期	2年次 9月～12月					
			専任教員☆ ② 野津尚哉	時間数	45							
目的と目標	既習の歯冠修復技工学などの基礎歯科技工を臨床と結びつけながら理解を深め、実践能力を養うための臨床的模型による実習をととして歯科技工士としての必要な技術と知識および姿勢を身につける 1 精度の高い歯型可撤式模型を製作できる 2 安定した咬合関係を付与できる 3 適合精度に関わる因子を分析検討できる 4 口腔ケアを考慮した歯冠形態を付与できる 5 機能的歯冠形態について検討できる 6 患者の将来リスクを検討できる 7 実習内容の振り返りができる											
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員							
1, 2	上下顎対咬する全部金属冠の製作	グループワーク・模型調整		実習	外部講師 (長谷部和弘) 専任教員 (野津尚哉)							
3, 4		歯型調整・咬合器装着										
5, 6		グループワーク・蠟型採得										
7, 8												
9, 10												
11, 12		CAD/CAM 冠の設計										
13, 14		グループワーク・埋没										
15, 16		鑄造										
17, 18		適合・コンタクト調整										
19, 20		研磨										
21, 22		完成										
23		評価	グループワーク					講義				
評価方法		各実習製作物とレポート・報告書および基本的実習態度について評価する										
参考文献と資料		最新歯科技工士教本 歯冠修復技工学（全国歯科技工士教育協議会編） 歯冠修復技工学 実習の手引き										
事前準備や受講要件等		模型を一次石こう注入まで準備 実習レポートまたは症例報告書の作成有										
☆担当教員の実務経験		①歯科技工士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする ②歯科技工士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする										

授業科目	審美性を考慮したブリッジに関わる歯科技工	担当教員	外部講師☆		単位数	1	時期	2年次 9月～12月
			①大霜 敬司 専任教員☆ ② 野津 尚哉					
目的と目標	既習の歯冠修復技工学などの基礎歯科技工を臨床と結びつけながら理解を深め、実践能力を養うための臨床的模型による実習をととして歯科技工士としての必要な技術と知識および姿勢を身につける 1 症例に応じた模型が製作できる 2 支台装置の歯型調整が正確にできる 3 症例に合わせた接触滑走を検討できる 4 基底面形態にふさわしい粘膜面調整ができる 5 適正なポンティック咬合面の大きさを付与できる 6 正しい基底面形態を付与できる 7 清掃性を考慮した歯間空隙・連結形態を付与できる 8 連続する前装冠の製作が製作できる 9 実習内容の振り返りができる							
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員		
1,2 3,4 5,6 7,8 9,10 11,12 13,14 15,16 17,18 19,20 21,22 23	前歯部を含むブリッジの製作	グループワーク・模型作製 歯型調整 咬合器装着 支台装置蝋型採得 ポンティック（鞍状型）蝋型採得 シリコーンコア採得 基底面形成（リッジラップ型） 窓開け・連結 スプルー線植立・埋没 鋳造・適合 金属部研磨 硬質レジン築盛・形態修正 研磨・完成 評価			実習              講義	外部講師 （大霜敬司） 専任教員 （野津尚哉）		
評価方法	実習製作物および基本的実習態度について評価する 中間評価有り							
参考文献と資料	最新歯科技工士教本 歯冠修復技工学（全国歯科技工士教育協議会編） 歯冠修復技工学 実習の手引き							
事前準備や受講要件等	模型を一次石こう注入まで準備							
☆担当教員の実務経験	①歯科技工士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする ②歯科技工士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする							

授業科目	審美に関わる歯科技工	担当教員	外部講師☆ ① 内藤 秀治 専任教員☆ ② 鷺見 明香	単位数	1	時期	2年次 9月～12月
				時間数	45		
目的と目標	既習の歯冠修復技工学などの基礎歯科技工を臨床と結びつけながら理解を深め、実践能力を養うための臨床的モデルによる実習をとおして歯科技工士としての必要な技術と知識および姿勢を身につける						
	1 症例に合わせた作業用モデルが準備できる 2 正しい金属フレーム形態を理解できる 3 レジン維持装置の付与が適切にできる 4 色調再現に興味を持って取り組みができる 5 反対側を参考に歯冠の外形が形成できる 6 装着時の調整量を意識して製作できる 7 実習内容を振り返ることができる 8 修復物の改善に取り組むことができる						
回数	学習課題	内 容		方法		担当教員	
1, 2 3, 4 5, 6 7, 8 9, 10 11, 12 13, 14 15, 16 17, 18 19, 20 21, 22 23	硬質レジン前装冠製作          完成 評価	模型の観察 模型調整 歯型調整・咬合器装着 グループワーク・レポート 蠟型採得 窓開け・維持装置付与・埋没 鑄造・適合・鑄造体修正・粗研磨 グループワーク・レポート レジン築盛（基本的な築盛・特殊色） 内部ステイン・表面保護層 形態修正（外形、規則性、表面性状） 自己評価・グループワーク・レポート 発表		実習            講義		外部講師 （内藤秀治） 専任教員 （鷺見明香）	
評価方法	各実習製作物および基本的実習態度およびレポートについて評価する						
参考文献 と資料	最新歯科技工士教本 歯冠修復技工学（全国歯科技工士教育協議会編） 歯冠修復技工学 実習の手引き						
事前準備や 受講要件等	各グループに患者情報添付 前装冠の色調表現に関して専門雑誌及び図書などを調べて授業に臨む 実習レポートの作成有						
☆担当教員 の実務経験	① 歯科技工士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする ② 歯科技工士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする						

授業科目	歯科技工に関わる研究	担当教員	専任教員 恒川 康成	単位数	1	時期	2年次 11月～12月
			専任教員☆ ① 北川 洋哉	時間数	30		
目的と目標	歯科技工における研究の重要性を理解して研究のプロセスを学ぶ 症例報告のプロセスを当てはめて研究の基礎を体感する 1 歯科技工における研究の重要性を理解できる 2 研究の進め方・方法を検討できる 3 研究結果をまとめ発表資料を作成できる 4 研究結果をわかりやすく報告できる						
回数	学習課題	内 容		方法	担当教員		
1, 2 3, 4	研究プロセスの理解	研究の重要性 研究の目的と方法 データの収集 研究の進め方 研究の考察 文献の検索の必要性と方法		講義	専任教員 (恒川康成) 専任教員 (北川洋哉)		
5, 6 7, 8 9, 10 11, 12	研究の実際	実験・データの収集  抄録・スライドの製作		演習			
13, 14 15	発表の必要性と方法 研究報告会と振り返り	発表原稿の作成・報告会の運営 講評					
評価方法	作成した抄録と発表原稿および発表および報告会の運営（80%） 取り組み姿勢（20%）について評価する						
参考文献と資料	使用するスライド資料を配布						
事前準備や受講要件等	必要に応じてプロジェクターを用意 研究計画書および使用する器材のリストを提出 研究抄録および発表原稿の提出を指定日までに提出する						
☆担当教員の実務経験	① 歯科技工士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする						